

# 山行報告書

報告書作成

2012年9月9日

山名 [山域]	風越山(1535m)	目的と方法	親睦
登山期間	2012年9月9日	山行形態	日帰り周回
参加人数	5名		

## 行動記録

大滝溪谷駐車場 (6:00) =R153=猿庫の泉P (8:00 8:20) -小橋 (8:40) -滝分岐(9:15) -今庫の泉 (9:50 10:10) -展望台 (10:50 11:10) -風越山 (12:00 12:40) -高鳥屋神社 (13:35 13:45) -猿庫の泉P (14:55 15:15) =砂払温泉 (15:30 16:45) =大滝溪谷駐車場 (18:30)

駐車場：猿庫の泉駐車場（トイレ有り）台数5台程



### \*日誌\*

猿庫の泉Pからの出発である。出発直前、地元の方に「熊情報」をもらう。数日前に捕獲したそうだ。熊鈴をザックに付け、良く響くか確認。登山口までは作業用の砂利道に行く。崩壊寸前の小さな橋が入口だ。山中に入ると少し先にも同じような状態の小橋があった。あまり使われていない道なのか。樹林帯の中は沢沿いに道がある。熊情報のおかげで小動物の動きに過敏に反応してしまう。鳥が巣を守っていたのか。沢はなめ床だったり、小さな滝があったりする。キラキラと水面が光を反射するので涼しげなのだが、沢沿いの道は砂地や岩地があったりで、少々歩きにくい。そんな時だ。後方でガラガラと石が転がり沢に落ちた。最後尾のMさんが「待ってええええ」と追いついて来た。Mさんは花の写真を撮っていたところ、対岸でズルズルと斜面を駆け上がる何者かの気配を感じたそうだ。私達も落ちた石の音の大きさと、落としたヤツの大きさを想像し息を飲んだが、相手も相当びっくりしたに違いない。沢沿いから離れると伐採された木が横たわったままになっている。斜面をジグザク登る。登りきると登山道に入る。ベンチがあり、すぐ隣に今庫の泉方面を示す道標が目に入る。一息で登ると東屋があり、その横に今庫の泉がある。「延命の水」と呼ばれており、茶席にも使われる名水をいただく。小休憩をし、穏やかな登りを少し行き、「カザコシヤマ」の道標を過ぎると急登になる。低い笹が両脇を覆う道を過ぎると展望台に着く。飯田の街が眼下に広がるが、視線の先の南アルプスは山頂部分にだけ、カーテンの様に夏の雲が広域に掛かっていたため、展望は望めなかった。見上げれば空は高く、秋の気配を感じさせる雲なのだが残念だ。山頂の手前に白山社奥宮がある。古びた鳥居をくぐり、門を抜け、石段を上ると朱い本殿がある。本殿の横は小さな秋のお花畑になっていた。本殿脇を抜けると石の参道になっており、石仏が点在していた。1か所ロープが張ってある場所があるが、木の根が梯子のようにになっているので、難なく登った。

ほどなく山頂に到着。山頂はブナなどに囲まれており、展望はまったく無いが、その分風も無くとても落ち着く場所である。下山はヤブ漕ぎが心配されたが道がまだ残っていたので、笹を掻き分けての下山となった。笹ヤブが終わると樹林の中を歩くのだが、踏み跡が無く、登山道もはっきりしておらず、何度も地図を確認した。水場は木に印があったが、水が出ているかは確認せず通過した。高鳥屋神社で小休憩をとる。寂しい神社だったが、灯籠の形が少し変わっていた。赤松が増えてきた。登山道ではない、赤松に向かって踏み跡が伸びている。やはりきのこの山だ。その道に目的が感じられる。石仏はよく見ると阿修羅のように何本も手が出ており、同じようなものがいくつもあるのが苦むしたりしてそれぞれに趣があった。ほどなくすると高鳥屋神社の参道入り口に出た。石の鳥居が白く真新しい。階段を下りると猿庫の泉駐車場の数十メートル手前だった。猿庫の泉は整備されており、立派なお茶室が横につくられていた。ところで、水の味、今庫と猿庫では味が違うのか？・・・私にはよく分からなかった。Nさんが言った。登山の途中で飲んだ分、今庫が美味しく感じた。私も同感だった。帰り道、R153飯田街道沿いの鳥料理「花の木」でお惣菜をテイクアウトした。閉店間際にも関わらず、お店はとて賑わっていた。

### \*感想\*

風のさわやかさ、空の高さなど、夏の終わりを感ずる山行だった。気が早いと分かりつつも、「きのこ入山料1000円」の看板を見てしまうと、期待せずにはおれない。結果毒キノコばかりだったが、それぞれ個性的なたち、色、艶、模様でとても楽しませてもらった。バターとハチミツをかけて食べたらおいしそうなお見目で毒なのだ。それから初めて熊がいるかも・・・と怯える山行